

清須市保育園

保育課程

保育の理念	子どもの主体性の尊重を第一にして、家庭や地域との連携、協力を図り、子どもの発達を促す。 子どもの元気で健やかな成長を願い、保護者と保育園が共に子どもの育ちを支えあう。			保育の特色	明るく たくましく 思いやりのある子どもを育てる保育		
子ども像	☆自分で考え行動する子ども ☆健康でたくましい子ども ☆友達とよく遊び、思いやりのある子ども ☆人の話を聞き、自分の思いが話せる子ども ☆素直な心で受け止め、感動できる子ども						
保育の方針	・乳幼児に適した環境を整え、子ども一人一人の生活の連続性や、発達の連続性を踏まえ、保育の内容の工夫を図る。 ・保育園と小学校との連携を図り、小学校への円滑な就学を図る。 ・老人福祉施設や地域との交流を図る。 ・関係施設や機関と密接な連携を取り、子どもの育ちと親の子育てを総合的に支援する。			食育	乳児期に必要な元気な心と体をつくるための望ましい食習慣を身に付ける ・ 友達や保育士と一緒に楽しく食べる。 ・ 食事のマナーを知る。 ・なんでも食べてよく遊び、元気な体を作る。 ・ アレルギー対応をする。(個別対応・除去食・栄養士との三者懇談)		
保育の目標	・十分に養護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満ちし、生命の保持及び情緒の安定を図る。 ・健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培う。 ・人との関わりの中で、人に対する愛情と信頼感、そして人権を大切にすることを育てると共に、自主、自立及び協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培う。 ・生命、自然及び社会の事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培う。 ・生活の中で、言葉への興味関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養う。 ・様々な体験を通して、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを培う。 ・障害児保育については、統合保育を通して様々な個性を持った人の中で生きている感覚を培う。			社会的責任	(1) 子どもの人権の尊重 保育所は子どもの人権に十分配慮するとともに、子ども一人一人の人格を尊重して保育を行わなければならない。 (2) 地域交流と説明責任 保育所は地域社会との交流や連携を図り、保護者や地域社会に、当該保育所が行う保育の内容を適切に説明するよう努めなければならない。 (3) 個人情報の保護と苦情解決 保育所は、入所する子ども等の個人情報適切に取り扱いつともに、保護者の苦情などに対し、その解決を図るよう努めなければならない。		
発達過程	おおむね7ヶ月から1歳3ヶ月未満	おおむね1歳3ヶ月から2歳未満	おおむね2歳	おおむね3歳	おおむね4歳	おおむね5歳	
	・座る、はう、立つ、つたい歩き、手を使うなど、運動機能の発達により探索活動が活発になる ・大人との関わりが深まり、やり取りが盛んになる ・愛着と人見知りが始まる	・歩行の開始と言葉の習得が活発になり伝えたいという欲求が高まる ・様々な運動機能の発達により行動範囲が拡大する ・周囲への関心や大人との関わり情緒的な絆が深まる	・基本的な運動機能の伸長や指先の機能が発達する ・食事・衣服の着脱・排泄など、自分でしようとする ・言葉の増加、自己主張の高まり、自我の育ちが著しい ・探索活動が盛んになり模倣やごっこ遊びが始まる	・基本的な生活習慣が形成される ・話し言葉の基礎が形成し、知的に興味や関心が高まり質問が多くなる ・予想や意図、期待を持った行動をとるようになる	・全身バランス力、身体の動きが巧みになる。 ・人の気持ちが分かる ・自然など身近な環境への関わり方や遊び方を体得する ・自意識の高まりと葛藤の経験、自己主張が強くなる ・友達関係が強まる	・基本的な生活習慣が確立する ・運動遊びや全身を動かした遊びに、活発に取り組む ・仲間とともに遊ぶ中で規範意識や社会性を体得する ・判断力・認識力が高まり自主性・自立性が形成される	
内容	生命の保持	・一人一人の子どもの平常の健康状態や発育及び発達状態を的確に把握し、異常を感じる場合は、速やかに適切に対応する。 ・家庭との連絡を密にし、嘱託医等との連携を図りながら、子どもの疾病や事故防止に関する認識を深め、保健的で安全な保育環境の維持及び向上に努める。 ・清潔で安全な環境を整え、適切な援助や応答的な関わりを通して子どもの生理的欲求を満たしていく。また、家庭と協力しながら、子どもの発達過程等に応じた適切な生活リズムが作られていくようにする。 ・子どもの発達過程等に応じて、適度な運動と休息を取ることができるようにする。また、食事、排泄、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなどについて、子どもが意欲的に生活できるよう適切に援助する。					
	情緒の安定	・一人一人の子どもの置かれている状態や発達過程などを的確に把握し、子どもの欲求を適切に満たしながら、応答的な触れ合いや言葉がけを行う。 ・一人一人の子どもの気持ちを受容し、共感しながら、子どもとの継続的な信頼関係を築いていく。 ・保育士等との信頼関係を基盤に、一人一人の子どもの主体的に活動し、自発性や探索意欲などを高めるとともに、自分への自信を持つことができるよう成長の過程を見守り、適切に働きかける。 ・一人一人の子どもの生活リズム、発達過程、保育時間などに応じて、活動内容のバランスや調和を図りながら、適切な食事や休息が取れるようにする。					
	健康	○明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。	○自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。	○健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。			
	人間関係	○保育所生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。	○身近な人と親しみ、関わりを深め、愛情や信頼感を持つ。	○社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。			
環境	○身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ。	○身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。	○身近な事物を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。				
言葉	○自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。	○人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。	○日常生活に必要な言葉が分かるようになると共に、絵本や物語などに親しみ、保育士等や友達と心を通わせる。				
表現	○いろいろな物の美しさなどに対する豊かな感性を持つ。	○感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。	○生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。				